

- 出穂 25 日後までは飽水管理を徹底し、稲体の活力を維持しましょう！
- 異常高温・フェーン現象が予想される場合は、早めの湛水を行いましょう！
- 高温で収穫時期が早まる可能性があります。籾の黄化程度を確認し適期収穫に努めましょう！

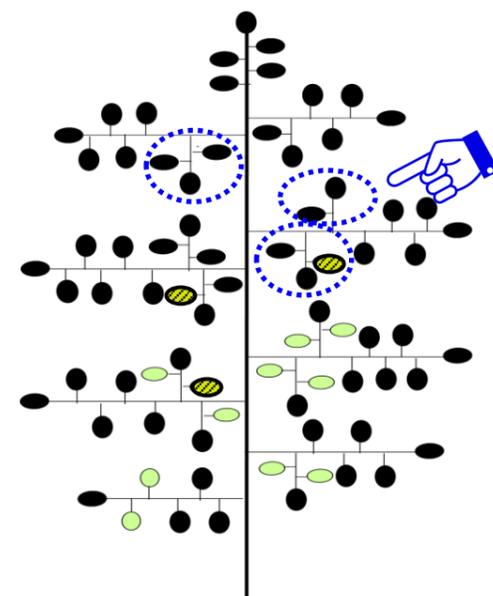
1 収穫までの水管理

- **出穂 25 日後まで飽水管理（田面を乾かさな水管理）の継続**が基本です。根の健全化を図り、下葉の枯れ上がり・倒伏・品質低下を防ぎましょう。
- 軟弱な圃場では、限界まで飽水管理に努めましょう。稲刈りがスムーズに行えるように準備しましょう。
- 異常高温・フェーン現象が予想される場合は、あらかじめ湛水をしましょう。

2 収穫時期の目安（予想）

- 極早生・早生品種は刈遅れによる品質低下を防ぐため、早めの作業準備を行いましょう。
- 収穫適期は地力や栽培管理によって異なるため、必ず籾の黄化率 85~90%（右下図）を確認して刈取りをしてください。**図の点線で囲われた部分（上位 3~4 本目のつけ根部分の全ての籾）が黄化した頃が収穫適期**です。
- **胴割粒、基部未熟粒の発生を防ぐため、刈遅れに注意**しましょう。
- 高温登熟年では、**成熟期を過ぎても基部未熟粒が増加**します！
- 出穂後の積算気温から見た収穫適期予想は下記のとおりです。（8/18現在）

品種名	出穂期	収穫時の積算温度の目安	収穫適期予想
新潟次郎	7/18	1000℃	8/24
ゆきん子舞	7/20	950~1000℃	8/24~26
こしいぶき	7/22	975℃	8/27
コシヒカリ(5/10 植え)	8/4	1000℃	9/11
〃 (5/20 植え)	8/6	1000℃	9/14
新之助	8/7	1050~1100℃	9/17~19



[収穫適期の穂の状態]

- 黄化籾
- 黄化直後の籾
- 緑色籾

※高温年（出穂5~24日後の20日間の平均気温が概ね26℃を超える年）の場合は目安より50℃（2日程度）早めましょう。

3 収穫作業の注意点

- 異物や他品種の混入を防ぐため、下記の点に注意しましょう。
 雑草種子混入防止：**収穫前にクサネムとヒエを除去**しましょう。
 他品種の混入防止：品種切り替え時は、コンバインや乾燥機等をよく清掃しましょう。
- **倒伏した稲は刈り取り・乾燥・調製に注意**しましょう。
 収穫時：倒れている方向に向かって追い刈り（一方刈り）でゆっくり刈り取り、籾の詰まりや土の混入を防ぎましょう。
 乾燥時：倒伏したほ場の籾は水分のばらつきが大きいため、水分ムラを解消させながらゆっくり乾燥させましょう。
 調製時：早期倒伏した場合は青未熟粒等の発生が予測されます。適切な流量にして整粒割合を高めましょう。
- 乾燥調製作業の遅れが心配される場合は、カントリーエレベーター等の利用も検討しましょう。



4 乾燥作業の注意点

① 胴割粒の発生防止

- 高温年は胴割粒が発生しやすくなるので、急激な乾燥は避け、乾燥 **温度を低く** 設定し、胴割粒の発生と食味の低下を防止しましょう。
- 籾水分が高い場合は、乾燥温度を低く設定しゆっくり乾燥させましょう。
- フェーン等で張り込み時の籾水分が 20%以下になる場合、日中に加熱乾燥を行うと急激に乾燥し胴割粒の原因になります。従って日中は通風乾燥のみとし夜間に低めの温度で乾燥させましょう。

食味が低下しない乾燥温度の目安

生籾水分	乾燥温度
24%	50℃以下
28%	40℃以下

② 正確な水分測定

- 乾燥機の自動水分計が 17%程度になったら随時サンプルを取り、手持ちの水分計で測定しながら、**適正水分の 14.5%~15.0%に仕上げ**ましょう。(※飼料用米も同じ基準)

5 調製作業の注意点

① 適正な籾すり・選別作業

- 穀温が高いと籾殻のムケが悪くなるので、**籾の温度が常温近くまで下がってから籾すり**を行きましょう。
- 流量が多いと籾すり・選別が悪くなります。**調製時の籾の流量を適正に調整**してください。
- 粒厚の薄い玄米は、タンパク質含有率が高く、食味が低下します。**篩目は 1.85 mm以上を使用**しましょう。(新之助は 1.9mm 以上)

② 正確な量目の測定

- はかりは清掃と点検を行い、置き場所の水平と安定を確認してから使用しましょう。
- 検査時の皆掛重量は **紙袋 30.5kg・フレコン 1030.5kg (いずれも風袋込み)** です。

6 土づくり等

- 稲わら**秋すき込み**には地力の向上や、根腐れの原因であるワキの発生の軽減等の効果があります。稲わらのすき込みだけでなく籾殻もすき込み、ケイ酸の補給に役立てましょう。
- 稲わら等の秋すき込みは、**地温の高い 10 月中旬までに、「浅うち」(5~10 cm程度)**で行い、わらの分解を促進させましょう。乾きにくいほ場では、ほ場の中央部のみすき込みましょう。
- 新潟次郎等**多収性品種の連作ほ場では地力の低下が懸念される**ため、土づくりを計画的に行いましょう。
- 土壌分析結果を参考に、リン酸、ケイ酸、鉄が不足しているほ場では、土づくり資材を積極的に活用しましょう。

【土づくり資材例】

品名	使用量 (kg/10a)	保証成分 (%)			特徴
		P	Mg	Si	
ニュー米スター	30	2		32	アルカリ分 32.0
柏崎専用土づくり肥料	40~60	8	3	16	総合土づくり
おぐに土づくり肥料	30	3.9	1.5	17.5	酸化鉄 13.0 腐植酸 3.0
みつパワー	60~120		2.7	25.1	マンガン 10.0

◎ SNS・メールで情報提供しています！

<JA えちご中越柏崎地域営農情報>



アカウント ID : @882qbimy



<柏崎農業普及指導センター メールマガ>



ngt111840@pref.niigata.lg.jp

- こちらのアドレスに、
- ①件名は「メールマガジン申込」
 - ②本文に「氏名」、「電話番号」を記入の上、送信してください。

↑詳細はこちらから

【お問い合わせ先】

全地区共通

柏崎農業普及指導センター 21-6263

東部田尻・西中通・高柳

かしわざき営農センター 21-0220

南部高田・中央柏崎地区

かしわざき南部営農センター 41-6087

刈羽・西山地区

かしわざき北部営農センター 45-2258

柏崎地域農業振興協議会

柏崎市、刈羽村、新潟県農業共済組合中越支所、えちご中越農業協同組合、柏崎土地改良区
柏崎農業普及指導センター (新潟県柏崎地域振興局農業振興部)